

指導のねらい

基準量と比較量の両方に着目して、割合の大小を判断できるようにする。

課題の見られた問題の概要と結果

B 5 (3) 4月と6月の全体の重さを基にしたペットボトルの重さの割合の大小関係について書かれた正しい文章を選び、判断のわけを書く。 正答率17.9%

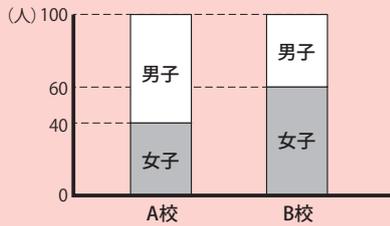
学習指導要領における領域・内容

〔第5学年〕 D 数量関係

(2) 百分率の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。

授業アイデア例

(1) 女子の人数の割合は、A校とB校のどちらが大きいですか。

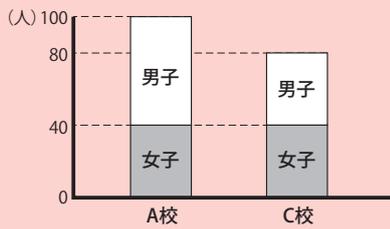


全体の人数が同じです。

女子の人数が多いほうが、割合が大きいです。

全体の人数が100人だからA校は40%、B校は60%です。B校の女子の人数の割合のほうが大きいです。

(2) 女子の人数の割合は、A校とC校のどちらが大きいですか。

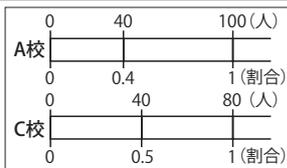


今度は、女子の人数が同じですね。

女子の人数が同じだから、割合も同じだと思います。

C校の全体の人数は80人で、女子はその半分だから、女子の人数の割合は、50%です。

数直線で表してみると、C校のほうが女子の人数の割合が大きいです。



全体の人数がちがうので、女子の人数が同じでも、割合は同じになりません。

(3) (1)と(2)からわかったことなどをノートに書きましょう。

わかったこと

- 全体の人数がちがうとき、女子の人数が同じでも、割合は同じにならない。
- 女子の人数の割合を比べるときには、女子の人数だけでなく、全体の人数をみる必要がある。

今度から、資料を見て割合を考えるときには、気を付けようと思います。

《主な学習内容》

- グラフから、基準量と同じで比較量が異なっていることに気付く。
- 基準量と同じで比較量が異なる場合、比較量が大きい方が割合が大きいことを確認する。
- グラフから、比較量と同じで基準量が異なっていることに気付く。
- 計算して割合を求めたり、数直線に表したりして、割合の大きさを比べる。
- 基準量が異なる場合、比較量が同じでも、割合は同じにならないことに気付く。
- 分かったことをノートに整理する。

留意点

- 割合の大小を判断する問題を扱い、計算して割合を求めたり、数直線で割合を表したり、円グラフなどをかいたりする活動を取り入れて、基準量と比較量の両方で割合の大小が決まることの理解を確実にする。